

最初は丸木橋だった

豊平橋

豊平川には今、全部で四十以上の橋があります。その中でも代表的な橋が、豊平橋です。何度も架け替えられてきた、この橋の歴史を紹介します。

札幌の「母なる川」豊平川はかつて、「暴れ川」と呼ばれるほど流れが激しかったそうです。大雨や雪解けの増水で、橋が流されることもよくありました。安政四年（一八五七年）、豊平川に渡守わたもりが置かれ、丸木船で人々が往来するようになりました。

往来する人が多くなった明治四年（一八七一年）には初めて、豊平川の西の一部に二連の丸木橋が架けられました。その後、豊平川の本流にも、何回か丸木橋が架けられましたが、いずれも数カ月で流されてしまいました。

このため開拓使は、お雇い技師、N・Wホルトに豊平橋の設計を依頼し、明治八年（一八七五年）には道内初の西洋式の橋として完成しました。木造ハウトラスという構造のこの橋は、当時のアメリカの

最新技術と日本の木工技術が結び付いてできたもので

す。

しかし、この橋も十年（一八七

七年）の洪水によつて

壊れてしま

い、翌年、

P・W・ホ

イラーの設計により、同じ型の橋ができました。

明治三十一年（一八九八年）には、岡崎文吉おかざきぶんきちの設計により道内初の鉄橋として生まれ変わりましたが、四十二年（一九〇九年）の洪水によつて橋脚が傾いてしまいました。

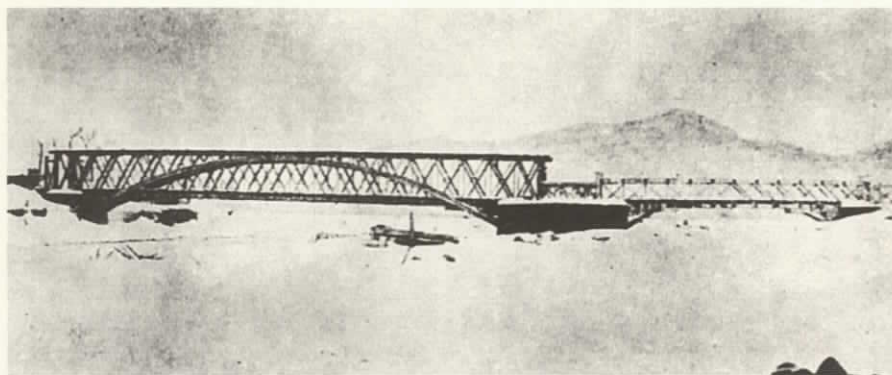
豊平川の流れに耐える構造を持つ橋が完成したのは、大正十三年（一九二四年）のことです。全長百



タイトアーチ型式の豊平橋（大正13年）

二十呎、幅十八呎のこの橋は、両側に三つの鉄のアーチを持つタイドアーチ型式でした。ぜいたくだとの批判を受けながらも、当時のお金でおよそ七十五万円もの巨費を投じてつくられました。関係者は、将来の札幌の発展を思い決行したと伝えられます。その曲線美から、釧路の旧幣舞橋、旭川の旭橋とともに道内三大名橋の一つに数えられました。全長百三十二呎、幅三十七呎の現在の橋は、総工費三億六千万円で、昭和四十一年に完成したものです。橋脚に鉄筋コンクリートを使用した、道内初の橋です。かつては、札幌のシンボルの一つでもあった、豊平橋。これからも、多くの人々をつなぐ橋であり続けることでしょう。

(平成十一年六月号・第五十七回)



ホルト設計の豊平橋 (明治8年)